

深イ～話！

No.159

—— 『「今」という生きかた』 廣濟堂文庫 小林正観著 ——

講演会の後などに、「姑（しゅうとめ）はイヤな人なんです」と相談に来る人がいます。

このように、自分のすぐそばにいる人の愚痴や悪口を言うことは、自分の価値を低めているということに気がついたほうがいいかもしれません。

夫、子ども、会社の人、友人まわりの人すべてが素晴らしい人に囲まれている、と言ったとしましょう。

聞いている人はその人のことを、その素晴らしい人たちに見合った人だと思わないのでしょうか。

愚痴や泣き言を言ったり、まわりの人の悪口を言うことで、いちばん損をしているのは自分。

なぜなら、悪口を言ったその相手と自分は、同じレベルだと公言していることになるからです。

夫、子ども、会社の人、友人... 私のまわりには、みんな素晴らしいと褒めれば褒めるほど、その素晴らしい人たちと同じように、あなたも素晴らしい人なんだと繋がっていく。

人の悪口を言わない人には、悪口を言わない友人が集まってきますし、人の悪口ばかりを言っている人には、悪口ばかりを言う友人が集まります。

毎日が嬉しくて楽しい、と思っている人は、そう思って過ごしている幸せな友人に囲まれるということ。私たちは、自分にちょうどいい人に囲まれています。

お釈迦さまの言葉に、つぎのようなものがある。（宇宙を貫く幸せの法則／致知出版社）より

すべてがあなたにちょうどいい。

今のあなたに今の夫がちょうどいい。 今のあなたに今の妻がちょうどいい。

今のあなたに今の子供がちょうどいい。 今のあなたに今の親がちょうどいい。

今のあなたに今の兄弟がちょうどいい。 今のあなたに今の友人がちょうどいい。

今のあなたに今の仕事がちょうどいい。 死ぬ日もあなたにちょうどいい。

すべてがあなたにちょうどいい。

友人の悪口をいえばいうほど、そのひどい友人にふさわしいあなたがいる、ということ。

自分の妻（夫）も、子どもも、兄弟も、会社も、学校も、みんな今のあなたにちょうどいい。

毎日が嬉しくて楽しい、と思っている人は、そう思って過ごしている幸せな友人に囲まれる…

「自分にちょうどいい人に囲まれる」という言葉を胸に刻みたい。

